

・・・年頭にあって・・・

久小学区住民協の皆様、明けましておめでとう御座います。

本年も宜しく、住民協を盛り立てて下さいますようお願い申し上げます。

ほぼ二年間にわたりコロナ禍に振り回されましたが、なんとか住民協活動は細々ですが続けられ、住民協ひろば特別号—5号も発行し、配布も完了いたしました。又11月28日日曜日には朝市も行われ、新鮮な野菜の販売など、成功裏に開催出来ました。

この「ひろば」が読まれる頃には改善の方向にあったコロナ禍ですが「今年はやっと良い年が迎えられました」と云えていれば、幸いです。

しかし残念ながら11月の末頃、急に「オミクロン」株ウイルスが「デルタ」株を超えて猛威を振るい始め、幾分緩和方向に向かいつつあったコロナ禍を一蹴し、大きく逆方向に引っ張て行く様相です。しかもこの株は従前のワクチンの効き目をも弱めるらしいと云われています。

とんでもないウイルスらしいです。

「雇用や経済活動に下振れリスクをもたらし、供給網を混乱に陥れる」と米連邦準備理事会パウエル議長談です。

そんな状況下で新年を迎えているかもしれません。そうであればマスクは当分離せないのではありませんでしょうか。

スイスチーズモデル(穴あきチーズ)が安全管理の考え方です。

一つの対策のチーズ、ウイルスがそのチーズの穴を通り過ぎても、次の対策のチーズがウイルスを防ぐ、多重安全防御の考え方。

例えばウイルスに対して；

混雑を避ける—マスクをする—手洗い・消毒をする—換気をする—ワクチンを打つ。

この五つの対策でウイルスの侵入を防ぐ。

この基本動作はいかなるウイルス株にも有効です。

年頭にあって本来なら今後の抱負などを述べるべきですが、今年もさらにタチの悪いウイルス株に振り回されそうで見通しが立ちません。

個人個人が身の安全を守って、今年も頑張りましょう。

校区住民協 代表 山崎 徳次郎

令和3年12月度役員会

開催日時と場所：2021年12月4日(土)、13時

30分～15時30分、久木会館 参加者15名(内役員13名)

議題

(1) 事務局からの報告事項

①逗子市住民協連絡会(11/19実施報告)

子ども会が減少しており子どもの地域における

育成環境が劣化しているので住民協の協力をお願いしたい旨要請があった。

②市内自治会協議会(11/20実施)

自治会役員のなりての不足の問題、会員の動向・増員対策の問題、広報の問題など4グループに分

(2) 審議事項

①久木朝市(11/28実施)及び社協との共催イベントの総括

今回の朝市は、社協共催のイベントを同時開催し、久木会館の室内まで使用して実施した。

また、のぼり旗の新設、三浦野菜の販売などを実施し、直ぐに売れきれのほど好評で、盛況だった。また社協イベントは子育て中の母親の孤立化防止や多世代交流を目的として開かれたが、幼児連れが多く、幼稚園の年長さん以上の参加は少なかったようだった。習い事などの日と重なるのか、曜日の設定を考慮する必要があるように思えた。合計参加者は約300名。

反省点として以下の事が報告された

- ・会館の入り口で、下足があふれ散乱していた。
- ・入口で高齢者などが下足を脱ぐのに、つかまるところもなく危険であった。
- ・入口に人があふれて、中に入る子供を阻害しているように見えた。
- ・出口調査のようなものを実施して、参加者の感想を集めると良かった。

また、今回の社協イベントはテストケースと聞いているので、次に実施される沼間でのケースと合わせ、社会福祉協議会で実施結果を総括してもらい、結果の報告とともに、今後の住民協の関わり方を協議してゆくこととした。

②住民協ひろば特別号第5号について

例年の特別号の8頁を10頁に増頁、5600部を5800部に増刷、11月末の市広報誌と同時配布されたことが報告された。未配布が散見されるので不都合あれば事務局へ連絡するよう要請された。又、助け合いのヒントになりうるので、活用場を設けたい旨報告があった。

編集後記

昨年は例年になくあっと云う間に1年が終わった。振り返ればコロナウイルスに明けコロナウイルスに暮れた。7月8月の爆発的なウイルスの感染拡大、その後、ワクチンの接種の浸透等による新規感染者の減少傾向が年末まで続いた。一方で11月頃より海外からの変異種オミクロン株の海外での感染の急拡大が毎日の様に報じられ、感染力の強さにその動向に注意を向けざるを得ない毎日である。多分今年もコロナウイルスを意識せざるを得ないのだろう。WITH コロナの対応を日頃の行動で意識しつつ、我々も前を向かなければならない。今年の干支(えと)は壬寅(みずのえとら)。暦によると「陽氣を平み、春の胎動を助く。冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ華々しく生まれる年になる」となるという。我々も飛躍の年としたい。

かれて討議があった。

③会計の報告

朝市及び特別号に関する会計の報告があった。

④久木小学校ワクワクフェスティバルの件

井上氏より、2年間コロナ禍で実施出来なかったワクワクフェスティバルを今年度末に実施すべく検討していることが報告された。

また、今はPTA主体で実施しているが、役員が毎年変わり継続性に課題があるので、住民協主体の組織と出来ないかとの起案があった。

本件は、多くの組織と関連していること、また開催の目的など住民協として関与すべきかどうか判断が難しいので、次回1月の役員会で久小PTA会長/内山氏など関係者の出席を求めて、改めて議論することとなった。

⑤各部会、会館からの報告

◆減災部会：11/27市防災課長に出席してもらい開催された。席上次の事項を申し入れた。

i. 津波避難場所に指定されている聖和学院第2グラウンドに関して、除草などの管理がなされていないので、善処すること。

ii. 地区防災拠点の具体化が大幅に遅れている。在宅避難の増加が見込まれる中、安否確認、救援物資の配布など、多くの問題を住民と一緒に解決すべきであり、地域とどのように連携してゆくかなど、訓練を実施していくことが必要であり、地区防災拠点の早急な具体化を要請した。

◆久木会館：来年度市からの助成金が大幅に削減されるが、会館利用者が多く黒字が維持できる見通しである。

⑥その他

新会員：及川佳寿美氏の会員登録につき諮問があり、本役員会で承認された。来年2月度から住民協ひろばの編集に参画予定との報告があった。

事務局長 石井達郎

《レポート》

11月28日開催の久木朝市

井上 亮子

校区住民協理事・拠点部会長

出店者は過去最多の16組（初出店4組）。社協さんのフードドライブの窓口を合わせ、17ブースの市場でした。

風は少し冷たいながらも、お天気に恵まれ、予定通りのエントランスのレイアウトにお野菜がズラリ！

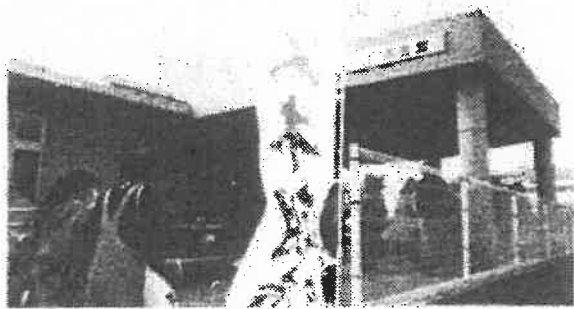
これはかなり売りでがあるぞ！と思いきや…。なんと10時前の入り口に20人ほどのお客様の列ができ、会場の掛け声とともに一気に売上の熱気に飲み込まれ、30分後には早くも売り切れのブースが出始めてしまいました。毎回、お客様の数を数えたいと思いついてはいるのですが、ざっと見て開始30分で1〜3人連れの皆さん 50組くらいはお迎えしていたのではないのでしょうか。



私はいつもエントランスの入り口に立たせていただいているのですが、歩くのに介助の必要なお婦人がご近所の奥さまに支えられてご来場くださった方が何組かあったり、「久しぶりですね〜」と開催を喜んで声をかけてくださった方

があったり、今回もこの企画に何らかの期待を抱いていただけていると感じられることがいくつもありました。「先週引越してきて、偶然通りかかりました」という赤ちゃんを抱いたママにも声をかけていただきましたし、お子様連

れのパパさんが「こんなのあるんだね〜」と関心を示してくださっていたのも嬉しかったです。みんなの食堂さんが大変な手間をかけて用意した久木小学校の銀杏は、早々に完売！残念ながら私は買えませんでした。



コロナ感染症の状況が好転している時期だったので、今回は館内を使った企画を社協さんがご用意くださいました。特に好評だったのは、クリスマスツリー工作のようでした。親子でフェルトやチャームをつけて思い思いのミニツリーを制作。このお部屋は12時ギリギリまで賑わっていました。

個人的にとっても心強く思ったのは、焼き菓子を販売していらした皆さん。11月が女性への暴力の根絶を訴える運動月間だったこともあり、紫リボンをつけていらっしゃったことです。これまでの朝市でも、貧困と児童労働の根絶を目指している団体の活動への寄付になるチョコレート販売してくださった方がいたり、高額な心臓病の手術代を集める活動への協力を訴えるチラシをご自分のブースにおいていらっしゃった方がありました。こういう、「普段の会話では軽々しく話題にしにくい」社会派のテーマを、地域の隣人から軽やかに投げかけられる場は、私自身とても貴重だと感じ、感謝しています。

次の久木朝市は、年度末頃を予定しています。乞うご期待！

《レポート 寄稿》

「地域を知って、地域であそぼう」

社会福祉協議会と子ども部会共催の「多世代交流イベント」のレポートです。

逗子市社会福祉協議会

お父さん、お母さん。遊びに参加しながらリラッ

今回、社会福祉協議会（以下、社協）では、久木小学校区住民自治協議会 子ども部会と共催して、11月28日「朝市」内で、多世代交流イベントを開催しました。

長引くコロナ禍での自粛生活により、日頃の人と人とのつながりが薄くなっています。特に、子どもが遊ぶ場や子育ての話を共有できる場が減っていることで、子育て世代の孤立が浮き彫りとなっています。このような現状の中で、改めて「地域で子どもを育てる」ことに取り組む必要性を感じたことから、今回、子育て世代を中心としたイベントを通して、親と子が楽しむこと、また地域の親同士（子ども同士）が知り合うこと、さらに地域の協力者と関わるきっかけをつくることを目的としたイベントを企画しました。



当日のお楽しみの1つ目、工作では予想以上の盛り上がりがあり、赤ちゃん連れから、小学生の親子も参加して、地域のスタッフに教えてもらいながらクリスマスの飾りを仕上げました。2つ目のカルタゲームでは、小学生の男の子を中心

に地域のスタッフと対戦しました。どちらの遊びも、地域のスタッフとの交流場面をつくることを意識し、またその後の名刺交換ゲームでも遊びで関わった方と改めて自己紹介やお話をする場面をつくったことで、一生懸命作った名刺を手し、笑顔あふれる時間になっていたと思います。

今回のイベントではたくさんの親子に参加いただきました。「近所なので…」「楽しそうなことをやっていたので…」「小さい子でも入れますか…？」など、子どもの手を引いて覗いてくれた

クスした様子や地域のスタッフと話がはずむ様子が見られました。このことから、交流の場、つながる場が必要とされていることを改めて感じると共に、小地域でその場を設定していくこと、また地域の協力者に関わっていただくことで、つながりを絶やさない仕掛けをつくっていくことの重要性を感じました。

今回、地域の協力者として、イベントスタッフ役を担っていただいた方々は、自治会関係者やお互いさまサポーターの方々です。お互いさまサポーターとは、社協が事業展開している地域の見守り



や、ちょっとしたお困りごと（ニーズ）対応を行うボランティアです。現在行っている高齢の方を中心とした活動内容から、今後は、子どもから高齢者、また困りごとを抱える全ての人を対象にした活動へと事業展開を行っていきます。そして社協では、お互いさま活動を通して、お互いにちょっと困った時に手を貸し合える、声が出し合える、そんな温かい地域づくりをみなさんと共に進めていきます。

最後になりますが、今回のイベント開催にあたって、企画や当日運営に携わっていただいた地域の協力者の皆さま、ご協力ありがとうございました。次回の企画も含めて、今後一緒に活動するお互いさまサポーターも、世代を問わず募集中です！